

やってみたい!

を

カタチにしよう

みんなの居場所 まちライブラリー@千歳タウンプラザ

<サポーター会議>

2019年4月23日(火)

(昼の部) 14:00~15:30

参加者13名

(夜の部) 18:00~19:30

参加者10名

まちライブラリー@千歳タウンプラザでは、毎月1回「サポーター会議」を開催しています。その際に必ず行っているのは、自己紹介+本紹介です。普段、本を読まなくても大丈夫!昔好きだった本、最近気になっている本、写真集・絵本・漫画でもなんでもいいのです。ちょっとでも本が身近に感じられるひと時を共有できたら嬉しいです。

当日は、まちライブラリー@ゆうまい絵本文庫の2周年の記念日。巣箱の取り組みを始め、各地に広がりを見せるまちライブラリーですが、今回は、千歳の活動に刺激を受けて挑戦を始めた「登別まちライブラリー」の活動にスポットを当てて紹介しました。

●「千歳の幸せ図鑑 level 5」発行

千歳タウンプラザを中心に徒歩5分~10分圏内のお店を紹介しています。

Level 5では、もはや徒歩1分圏内?ここ1年で新しいお店が続々オープンした旧友楽通りの5件にスポットを当てました。

「千歳の幸せ図鑑」は、まちライブラリー館内はもちろん、紹介したお店でも配布を行っています。また、level 1は、デジタルブックでの配信も行っています。

しかし、残念ながらまだまだ知らない人が多いのが現状です。今回サポーター会議に初参加してくれた学生からも、まちライブラリーを自習で利用しているけど、地図のことは知らなかった・・・と。もっともっと周知が必要ですね!



◀4/23《祝》2周年

まちライブラリー@ゆうまい絵本文庫のオーナー石橋光子さん。

「2年間はあっという間。ご近所の方から絵本を寄贈してもらって交流も。サボっているので、来館者は少ないけど、のんびり活動しています(笑)」
※訪問前にはお電話を。



▲昼の部

初参加のお二人は、フリーマーケットに参加したことをきっかけにサポーター会議に参加してくれました。

▲巣箱の図書館2号

巣箱のワークショップに参加している巳扇さんが手作りの巣箱を披露してくれました。室内用のコンパクトサイズ。

●登別まちライブラリーと千歳

久重より、登別図書館通信の職員コラムを紹介。

武者さんの熱い想いを図書館長が受け止め、図書館通信で市民に発信されている。新しい挑戦は何事もスムーズにはいかないが、取り組みに共感し賛同する人が一人ずつ増えてほしい。今後の登別の取り組みに注目が集まる。武者さんが千歳に刺激を受けたように、千歳のまちライブラリーも他の活動の取り組みからヒントを得て活動をより良いものにしていきたいですね。

図書館通信の5月号に武者さんのコラムが掲載されますので、登別図書館のHPからチェックしてみてください。

磯井は、実際に登別を訪問した時のことを振り返った。

武者さんは、「まちおこし」に関心が高い人でした。登別に「まちじゅう図書館」のようなものを広げたいと話をされた。しかし、やる気のないような人がやっても根付かない。まずは、武者さん自身が楽しいまちライブラリーをやるのが大切だと伝えた。

まちライブラリーをつくるまでは、一生懸命な人は多い。しかし、その先も大切。本を紹介したり、貸出したり、イベントしたり、看板をつくったり日常的なことを楽しみながら行う。磯井自身も日常的なことは苦手で「まちライブラリーに向いていない」と言う。旅館は女将が仕切るようにまちライブラリーにも二面性がある。男性社会・女性社会のような、それぞれに役割があるようだ。

【参加者の登別のイメージ】観光地／そのまま温泉へ行くので、街のイメージはなく、通りすぎる。／街を散策するのが好きで、市役所の前においしい蕎麦屋がある。歴史を知るのも楽しい。／息子が駅前の旅館に合宿で利用していた。／高速の鬼／先日旅行に行き、駅前の食堂のあんかけラーメンを食べた。とても美味しかった。／駅前は何にもなく、温泉地との違いを感じた。

千歳も空港・支笏湖のイメージが強いように、登別も温泉が強くて、中心部のイメージさびれている。千歳は千歳バーガー。登別は閻魔焼きそばを推しているように、意外と同じような悩みを抱えていて似ている部分がある。

磯井) フランスのプロバンスは千歳と同じような規模であっても、街の雰囲気が全然違う。店が個性的でチェーン店はない。道路が綺麗になっても、ビルが建て直されても、良くなるわけではない。生活感のない街になるだけ。今だ答えは見つからないが、デザインで街を良くするのはきっかけに過ぎない。そこで生活する、生活感がある街は魅力を感じています。

例を挙げると、「都市計画」は家の中の様子。散らかった家に住める人、片付ける人、快適に住むように工夫する人。これは、行政だけの問題ではなく、住んでいる人の問題が現在の状態に繋がっているように思う。自分の家の中なら散らかっている様子が分かるのに、規模が街になったとたんに自分に関係ないように考えてしまう。

N氏) 中心商店街について考えると、交通について問題が挙がる。JRにロマンを持ちつつも車社会。ヨーロッパは排気ガスなどの環境問題への関心も高く、いち早く取り組んでいる。政治的な社会も違うし、ヨーロッパの先進的な考え、人との関りの部分を変えていかないといけないと感じました。

金太郎飴のような街が広がっているのに、個性を出せ!となると、飴の切り方を変えるしかないのか(笑)

S氏) 住んでいる人は「便利・楽」には勝てない。

プロセスを楽しむことで生まれるものがある。しかし、ついつい人は「便利・楽」を追い求める。本当の意味での豊かさから遠ざかってしまっていると言える。

MEMO(1)あなたはどのようにサポーター会議へ？

・千歳の地域活性化をテーマに研究している大学生が初参加。

本日、インフォメーションコーナーに置いているチラシなどについてまちライブラリーのスタッフに声をかけたら、サポーター会議があるよと紹介されました。いつもは勉強に利用しています。去年は、支笏湖の氷濤祭に参加した観光客が千歳市内で過ごしてもらう機会についても研究を行っています。

・オープン当初から参加してくれる大学生。

まちおこしに興味があって、千歳をよくしたいと思っています。同じようなことを考える人、新しい人に出会いたいとサポーター会議に参加しています。

・札幌のまちづくりの会社の方が参加。

札幌は、まちづくりをしなくても発展しているが、将来を考えると様々な問題が潜んでいると思います。千歳に通うようになって、面白い店が揃っているのにもったいないと思っていました。私は、仕事も遊びも楽しんで自分事に考えるのが大事だと思っています。千歳も札幌も共通しているのが、「自分が住んでいる地域の良さを分かっていない。」ということ。そういうことを認識し合う場がこのような所なのかもしれません。まちづくりは、「誰かがやっていること。」ではなく、自分たちが住んでいるのだから、自分たちが楽しくできることだと思ってやっています。

MEMO(2)それぞれのストレス解消法

- ・書くこと
- ・何かつくること（手を動かす）
- ・まちライブラリーに来ておしゃべり
- ・お風呂でラジオ
- ・ももクロ
- ・一人の時間を過ごすこと
- ・毎日ちがうところに行くこと。
- ・晩酌
- ・体を動かす・ヨガ・瞑想
- ・焚火
- ・食べること



▲夜の部

— 一次回の開催 — 5月で調整中 【昼の部】 14:00~15:30 【夜の部】 18:00~19:30